

次の世代から、更にその次の世代へ

JJ1SXA 池

日本経団連の会長が、トヨタ会長の奥田氏からキャノン会長の御手洗氏に引き継がれましたが、これに関し、京大特命教授で外務省参与の竹内佐和子氏が記事を書いておられました。

要旨は、・・・国内市場の安定的な成長が見込め、既存の価値観のもとで、製品のコストダウンやスペックの小さな差別化を競えばよかった時代には、「調整型」の経営者でもさほど問題は生じなかった。だが、今は、諸々の要素で、グローバルな経営が求められる時代には、単なる調整型では後れを取る、「価値創造型」の経営が必要だ。・・・日本が産業立国として世界の中でトップの位置に立ち続けるには、一刻も早く、新時代に対応できるリーダー像を確立し、育成の仕組みを作らなければならないのではないかと。・・・と言うような内容で、続けて、リーダー像とリーダー育成について述べていました。

アマチュア無線の世界は、ここ数年でも大きく様変わりしています、DX 界では、神様な存在だったオナーロールも、今や、Mixed 部門では、世界で3.600局もいて、かつてのような権威ある象徴ではないようです(もともと CW 部門等では、まだ数少なく、やはり存在感があるのは当然ですが)、VoIP 無線も、メジャーなモードになって、あんなものは無線じゃ無いなどと言っていると、かなりの時代遅れの感もあります。

アマチュア無線は趣味ですから、自分の好みの分野で楽しめば良いわけですが、全体の流れや、傾向を知り、知識を持つことも大事な事かと思えます。

我が240グループも、モバイル通勤、モバイルコマーシャルの局が少なくなった事、平均年齢が高くなった事で昔からの局がだんだんリタイヤ、その他諸々の要因があるかと思えますが、ここ数年で随分様子が変わってきました。

今までの、240のリーダーとしては、「調整型」に徹する事が大事だったのでは無いかと思えますが、これからのグローバルなアマチュア無線界においては、「価値創造型」のリーダーが望まれることでしょう。

240は、今でもそうですが、一人のリーダーが何もかも引き受けて、権限を持つと言う事では有りません、リーダーグループとして、複数の人が、グループを引っ張っていくという形ですし、それが理想と思えます。

次の世代、更にその次の世代へ、240の流れは引き継がれることですが、一緒に考え、行動するリーダーグループが必要です、好むと好まざるとを問わず、自然にそういう立場になっていく人達がいる筈で、その立場に立ったなら、これからの時代、アマチュア無線の流れを把握し、より強固な240グループの地位向上に、従来の「調整型」に徹するだけのリーダーでは無く、一歩進めて「価値創造型」のリーダーとして、積極的に240グループをリードされることを切に望みます。